

62 歳男性。アレルギー性肉芽腫性血管炎と診断された。ステロイド治療前のスクリーニングで行った上部消化管内視鏡で異常を指摘されたため来院した。

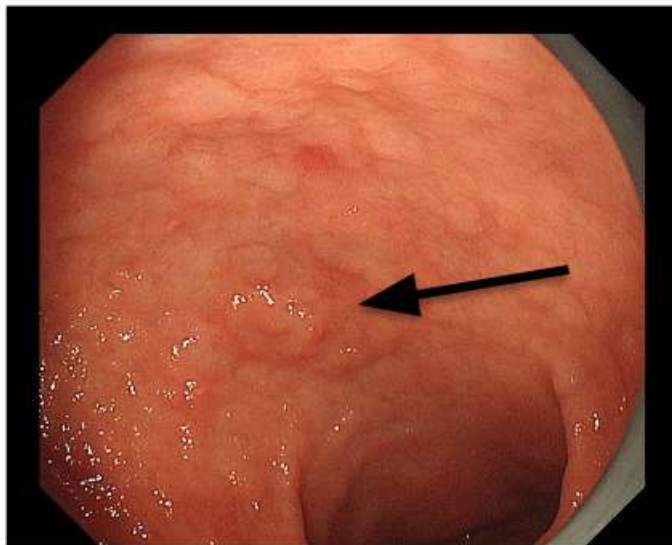
身長 170 cm 体重 58 kg 体温 36.1℃ 脈拍 71/分整 血圧 119/80mmHg

腹部は平坦，軟で肝・脾を触知しない。

血液所見：赤血球 420 万，Hb 13.2g/dL，Ht 40%，白血球 7000，血小板 19 万

血液生化学所見：アルブミン 3.9g/dL，AST 19U/L，ALT 16U/L，LD 282U/L（基準 176～353），CRP 0.2mg/dL

上部消化管内視鏡検査の画像を以下に示す。



問1 治療として適切なのはどれか

- a 胃粘膜保護薬投与
- b 胃全摘術
- c 幽門側胃切除術
- d 内視鏡的粘膜下層剥離術
- e プロトンポンプ阻害薬投与

問2 治療を行い患者の状態が安定した。次に行うべき検査として適切なものを2つ選べ。

- a 上部消化管内視鏡検査再検
- b PET-CT
- c 絶食試験
- d 下部消化管内視鏡検査
- e 便中 H.pylori 抗原測定

74 歳女性。黄疸を主訴に来院した。

身長 155 cm 体重 58 kg 体温 36.1℃ 脈拍 56/分整 血圧 124/74mmHg

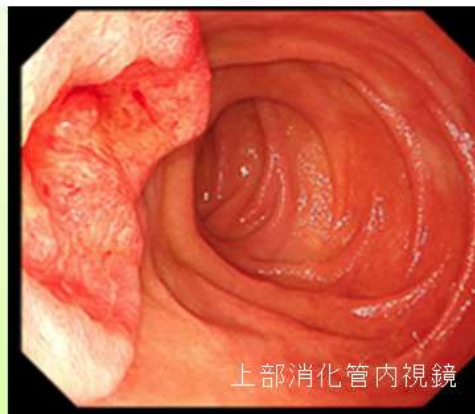
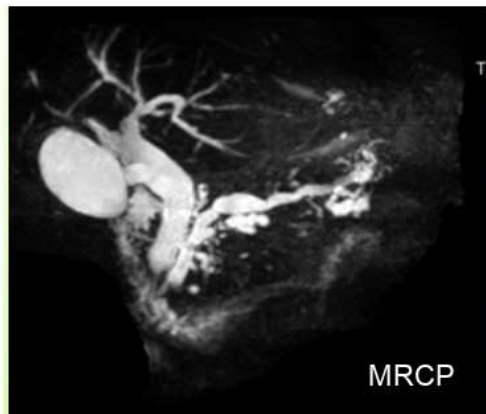
腹部は平坦，軟で圧痛を認めない。肝・脾を触知しない。

眼球結膜に黄疸を認め、全身に黄染を認める。

血液所見：赤血球 407 万，Hb 13.0g/dL，Ht 40%，白血球 7800，血小板 26 万

血液生化学所見：アルブミン 3.3g/dL, AST125U/L, ALT 191U/L, LD 200U/L（基準 176～353），ALP 516U/L, γ -GTP 370U/L, アミラーゼ 144U/L 基準（37～160）, 総ビリルビン 3.0 mg/dl, 直接ビリルビン 2.0 mg/dl, CEA 1.6ng/ml(基準 5 以下), CA19-9 50U/ml(基準 37 以下), DUPAN 152U/ml, CRP 0.3mg/dL。

MRCP と上部消化管内視鏡像を示す。



設問 1 もっとも考えられるのはどれか。

- a 十二指腸球部癌
- b 膵体部癌
- c 胆嚢癌
- d 十二指腸乳頭部癌
- e 肝門部胆管癌

設問 2 まず行うべき治療はどれか

- a 膵頭十二指腸切除術
- b 内視鏡的胆道レナージ
- c 抗菌薬投与
- d 胆嚢摘出術
- e 内視鏡的乳頭括約筋切開術

73歳男性。検診で腹部超音波検査を行ったところ肝臓に腫瘍を認め、精査のため来院した。

体温 36.4℃ 脈拍 99/分整 血圧 137/83mmHg

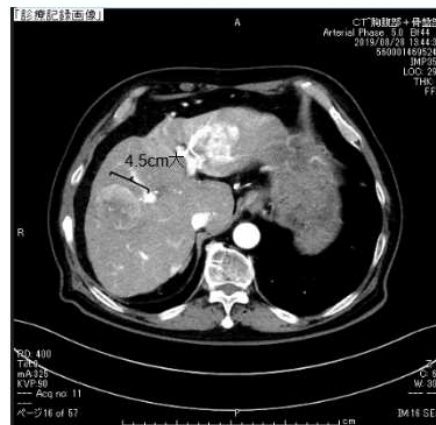
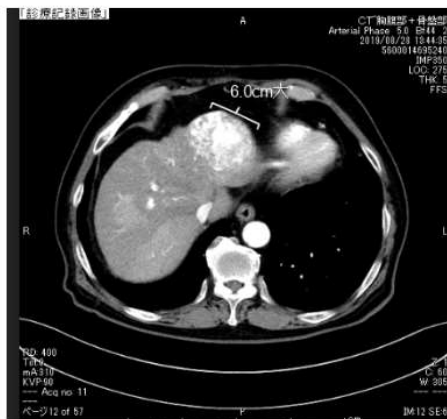
禁酒中だが 20 年前まで 2 日で日本酒一升の飲酒をしていた。20 年前にクモ膜下出血の既往がある。腹部は平坦，軟で肝・脾を触知しない。脳症を認めない。

血液所見：赤血球 403 万，Hb 12.8g/dL、白血球 6800，血小板 6 万

血液生化学所見：総蛋白 5.3g/dl、アルブミン 3.6g/dL、総ビリルビン 15 mg/dl、直接ビリルビン 13 mg/dl、PT 72%(基準 80~120%)

CEA 3.5ng/ml(基準 5 以下)、CA19-9 20U/ml(基準 37 以下)、AFP 9ng/ml(基準 20 以下)、PIVKAII 1972.6mAU/ml (基準 40 以下)

腹部の造影 CT を示す。



設問 1

適切な治療法はどれか

- a 放射線療法
- b 肝移植
- c 肝動脈化学塞栓術
- d 肝切除
- e ラジオ波焼灼

設問 2

PIVKAIIの値が上昇する薬剤はどれか

- a アスピリン
- b インスリン
- c ワルファリン
- d NSAIDs
- e カルバマゼピン